

〔第 2 号議案〕

令和 6 年度 事業活動報告書

社会福祉法人
陽 光 会

令和 6 年度事業活動報告

I. 理事会

日時・場所	出席者	協議内容等
(第 1 回理事会) 令和 6 年 6 月 6 日 (金) 午後 4 時～4 時 50 分 神奈川病院大会議室	理事 佐伯 隆史 長崎 達郎 菊地蔵乃介 正能 達也 濱本 修 伊藤 崇 監事 藤尾 智之 坂本 昌隆	〔議決事項〕 第一号議案 令和 5 年度決算及び事業報告の承認について 第二号議案 監事の退任及び推薦について 第三号議案 評議員の任期修正について 第四号議案 評議員会の開催について
(第 2 回理事会) 令和 6 年 9 月 18 日 (火) 午後 2 時～2 時 55 分 特別養護老人ホーム陽光苑	理事 佐伯 隆史 長崎 達郎 菊地蔵之介 正能 達也 濱本 修 伊藤 崇 監事 藤尾 智之 露木 朗	〔議決事項〕 第一号議案 寝具業務委託の見直しについて
(第 3 回理事会) 令和 7 年 3 月 21 日 (金) 午後 4 時～5 時 特別養護老人ホーム陽光苑	理事 佐伯 隆史 長崎 達郎 菊地蔵之介 正能 達也 濱本 修 伊藤 崇 監事 藤尾 智之 露木 朗	〔議決事項〕 第一号議案 令和 6 年度補正予算について 第二号議案 令和 7 年度予算について 第三号議案 令和 7 年度事業計画について 第四号議案 給食委託会社一般競争入札の承認について 第五号議案 事務長職の設置について 第六号議案 育児・介護休業に関してその規程変更

Ⅱ. 監事会

日時・場所	出席者	協議内容等
(第1回監事会) 令和6年6月5日(水) 午前10時～12時 特別養護老人ホーム陽光苑	監事 藤尾 智之 坂本 昌隆	・令和5年度事業活動報告について ・令和5年度収入支出決算報告について

Ⅲ. 評議員会

日時・場所	出席者	協議内容等
(第1回評議員会) 令和6年6月26日(木) 午後2時～3時 神奈川病院大会議室	理事長 佐伯 隆史 評議員 和田 崇 白石 健 砂田 育夫 山本 健太郎 錦織 琢磨	〔議決事項〕 第一号議案 令和5年度決算及び事業報告の承認について 第二号議案 監事の退任及び選任について

Ⅳ. 横浜市指導監査

日時・場所	出席者	協議内容等
(社会福祉法人指導監査) 令和7年2月3日(月) 9時30分～17時30分 特別養護老人ホーム陽光苑	理事 濱本 修 伊藤 崇	・文書指摘事項 会計2件 ・口頭指摘事項 運営5件 会計4件

Ⅴ. 管理部門

1. 職員体制

介護職員は、介護保険法で定められている「日中はユニットごとに常時1以上の職員を途切れることなく配置すること」に則した人員配置を確保している。

令和7年3月31日 現在

職 種		職 種	
施 設 長	1	管理栄養士	1
副施設長	0	看 護 職	2 (2)
生活相談員	2	機能訓練士	1
介護支援専門員	2	介 護	46 (10)
事 務 職	1	その他	13

※ () 内は非常勤、派遣職員の内訳

2. 職員研修

(1) 内部研修

研修委員会が中心となり、職員からのニーズを取り入れ、年間内部研修計画を企画推進しました。研修講師は各部門や委員会が担当しました。

研修資料として、オンラインを使用し、ユーチューブの活用を行いました

研修に参加出来なかった職員は、レポート提出をしています

3月からは「介護ジョブアカデミー」を使用しより知識を高める研修を開始しました
年間計画による研修

- 5月 救急対応について（夜間救急対応）（22名参加）
- 6月 感染症対策（第1回）（感染症の理解と予防）（13名参加）
- 7月 事故対策（第1回）（報告書について）（8名参加）
- 9月 感染症対策（第2回）（対応手順と対応BOXの確認）（10名参加）
- 10月 身体拘束適正化（第1回）（報告書作成と虐待）（19名参加）
- 11月 看取りについて（施設での看取りとは）（4名参加）
- 12月 事故対策（第2回）（事例に学ぶリスク）（9名参加）
- 1月 権利擁護・接遇・ケアプラン（ケアプランとは・マナーとは）（9名参加）
- 2月 褥瘡対策（背抜きについて）（12名参加）
- 3月 身体拘束適正化（オンライン個人学習）（全職員）

その他実施した研修

- 6月 感染予防研修（手洗いチェック）（58名参加）

(2) 外部研修

感染症対策を行いながら、オンライン研修や、外部対面研修を行うことができました

- 3月 ・ユニットリーダー研修 1名参加
- 9月～3月 ・喀痰吸引等研修 8名参加
- 5月～11月 ・社会福祉協議会、リスクマネジメント集中セミナー 自由参加

4月19日	・認知症高齢者の救急対応のコツ	3名参加
9月10日	・ケアの現場での必要な整形外科の知識	4名参加
10月24日	・ケアマネ研修会	1名参加
11月14日	・リーダーシップ研修	1名参加
11月22日	・摂食嚥下障害について	2名参加
12月17日	・介護施設における管理者のあり方	1名参加
12月23日	・ファローアップ研修	2名参加
1月17日	・防災リーダー育成研修	1名参加
1月27日	・ケアマネ研修	1名参加

3. 各委員会活動

委員会は常勤職員全員がいずれかに所属して運営に携わっています。

委員のサポートを受けながら若手職員が委員長を務めるなど、運営を行うことができました。

(1) 行事委員会

季節行事の立案と実施。

4月24日（7名）、5月26日（6名）、6月24日（7名）、7月24日（7名）

9月25日（5名）、10月16日（6名）、11月20日（7名）

12月25日（5名）、1月22日（5名）2月19日（8名）3月26日（6名）

(2) 食事委員会

食事に関わる全ての向上に向けた立案の実施

4月8日（11名）、5月13日（10名）、7月8日（8名）、9月9日（10名）、10月7日（7名）

11月11日（10名）、12月9日（10名）、2月10日（9名）

(3) 広報委員会

入居者、家族、事業所、地域に向けた広報活動。毎月【陽光苑だより】を発行し、特養入所のご家族様、ショートステイ利用者ご家族様、居宅へ送付をしました

(4) 防災・設備・美化委員会

防災、生活空間の向上、省エネ対策に向けた立案と実施。

8月13日（6名）11月12日（5名）2月11日（9名）

非常災害時のための業務継続計画を整備しました。随時有事の備えの強化に取り組みます。

11月非常食の保存、調理等の確認を行いました

2月 夜間想定避難訓練を実施しました

(5) 事故防止対策委員会

事故予防と再発防止に向けた立案と実施を行っています。

令和6年4月～令和7年3月 事故・ヒヤリハット件数

日付	ヒヤリハット				事故			
	転倒・転落	外傷	薬剤	その他	転倒・転落	外傷	薬剤	その他
令和6年4月	3	6	1	15	8	3	1	6
5月	3	11	1	19	6	7	0	5
6月	1	9	1	19	10	3	2	5
7月	1	4	0	6	4	3	0	5
8月	2	8	0	8	8	5	2	7
9月	5	20	0	13	6	8	3	13
10月	2	13	0	14	9	4	2	8
11月	0	8	0	19	5	6	1	5
12月	1	9	0	23	3	1	1	7
令和7年1月	0	13	0	19	4	5	2	9
2月	2	12	0	31	5	4	2	7
3月								
計	20	113	3	186	68	49	16	77

※その他内訳：誤嚥、誤飲、離脱等

ヒヤリハット件数は全体で昨年403件、今年度322件で－81件減少、事故は昨年度全体で250件に対し今年度210件で－40件の減少となっておりますが、薬剤事故0を目標に取り組んでいましたが、実現には至りませんでした。またヒヤリハット報告の減少は、気づきはあるが、記録に残すことが出来なかった分減少となってしまった。転倒、転落の事故が減少したことは、小さな気づきを対策に繋げて未然に防ぐ事が出来ました。外傷（内出血）事故が多く報告されているため、日々の入居者様の状態把握と情報共有に努めてまいります

(6) 権利擁護・接遇委員会 リーダー会議と併せて実施しました。

苦情、要望に関しての立案と実施。身体拘束廃止、個人情報保護、虐待防止など入居者の権利擁護に向けた立案と実施。職員の接遇向上に向けた立案と実施しています。

(7) 褥瘡対策委員会

褥瘡の予防と治癒に向けた対応についての検討会を行いました。

4月3日（10名）、5月1日（9名）、6月5日（9名）、7月3日（7名）8月7日（10名）
9月4日（10名）、10月2日（11名）、11月6日（8名）12月4日（8名）1月8日（11名）
2月5日（8名）、3月5日（8名）

(8) 感染予防委員会

感染予防に向けての全体周知、立案と実施。コロナを含め、感染症を疑うケースでは臨時開催しました。BCP計画（業務継続計画）の見直しを行いました。

4月23日（6名）、5月1日（9名）、6月4日（7名）、6月5日（10名）、6月19日（6名）

6月20日（4名）、6月24日（5名）、7月3日（7名）7月28日（4名）8月7日（11名）
11月25日（7名）、12月1日（4名）、12月27日（3名）、1月5日（3名）1月7日（4名）

(9) 安全衛生委員会

職員の労働環境の向上に向けた立案と実施を行いました。外部機関の看護師、産業医と連携し、成人病予防、メンタルヘルスケア、腰痛予防を3本柱として取り組んでおります。

(10) 入退所検討委員会

事前面談情報と入所申込書を基に入所判定会議の実施と受け入れ可否の決定、時期や部屋の選定。保証人やキーパーソンの確認、医療対応、通院、支援の要点について話し合いました。特例入所者の入退所判定。状態変化に応じて居室変更等の検討。入所申し込みの促進に取り組みました。

(11) 研修委員会

研修や勉強会の向上に向けた立案と実施しました。

4月15日（8名）、7月15日（3名）、10月21日（2名）、1月20日（3名）

(12) 排泄・入浴委員会

排泄ケアの統一、消耗品の管理、コスト削減、皮膚トラブルの軽減を目指し保湿ケアの徹底とそれにおける知識向上のための勉強会を行いました

4月16日（8名）、5月21日（7名）、7月16日（4名）、8月20日（8名）9月17日（6名）
10月15日（8名）12月17日（4名）、1月21日（5名）2月10日（9名）、3月18日（5名）

(13) 身体拘束適正化委員会

新人職員への研修を実施。年2回、全職員を対象の研修を実施しました。

1回目：10月18・25日（19名）

2回目：3月1日～末日 オンライン全体研修

委員会や研修を通じて、身体拘束による身体的、精神的、社会的弊害と人権を理解し、拘束のない体制作り強化に取り組みました。

4. 各会議

会議は、ユニットメンバー対象のユニット会議から、各部門の役職者、代表者が出席する経営会議を、目的に応じて実施しました。議事録を全職員が共有できるようにしています。また、介護主任・ユニットリーダー会議を月1回開催しています。

経営会議（法人本部、各部門の役職者、代表者が出席する会議、施設内の最高決定会議）

生活支援部門会議（生活相談員、介護支援専門員が出席する会議）

看護部門会議（看護師が出席する会議）

栄養部門会議（食事委員会内で実施、調理委託業者も出席する会議）

総務部門会議（事務員が出席する会議）

主任・リーダー会議（介護主任、ユニットリーダーが出席する会議）

ユニット会議（ユニット職員が出席する会議）

ショートステイ会議（ショートステイユニット、各職種が出席する会議）

5. 稼働率

令和6年4月～令和7年3月 ベッド稼働率(サービス別)

	本入所(36,500 床)			ショートステイ(3,650 床)	
日付	延べ人数	稼働率	稼働率 (入院者除く)	延べ人数	稼働率
令和6年4月	2917	97.2%	96.1%	229	76.3%
5月	3042	98.1%	97.0%	263	84.8%
6月	2925	97.5%	93.3%	215	71.6%
7月	3077	99.2%	98.2%	227	73.2%
8月	3042	99.2%	98.6%	264	85.1%
9月	3001	100%	95.8%	268	89.3%
10月	3072	99.1%	99.6%	260	83.9%
11月	2982	99.4%	98.6%	236	78.7%
12月	3021	97.5%	95.8%	221	71.0%
令和6年1月	3016	97.3%	95.2%	270	87.1%
2月	2728	97.4%	95.4%	179	63.9%
3月	3040	98.1%	95.8%	222	71.6%
各稼働率	35,863	98.3%	96.6%	2,854	78.2%

令和6年4月～令和7年3月 ベッド稼働率(全体)

	全体(40,150 床)		
日付	延べ人数(人)	稼働率	稼働率 (入院者除く)
令和5年4月	3,146	95.3%	94.2%
5月	3,305	97.0%	96.7%
6月	3,140	95.6%	92.4%
7月	3,304	96.9%	96.0%
8月	3,306	97.0%	97.0%
9月	3,269	99.1%	95.6%
10月	3,332	97.7%	97.2%
11月	3,218	97.5%	96.8%
12月	3,242	95.1%	93.6%
令和6年1月	3,286	96.4%	94.4%

2 月	2,907	94.3%	92.5%
3 月	3,262	95.7%	93.6%
稼働率	35,408	96.4%	95.0%

前年比： 本入所＋1.2% ・ ショートステイ＋11.3% ・ 全体＋1.8%

全体の実質平均稼働率は 95.0%、内訳は本入居の稼働率 96.6%、ショートステイの稼働率 78.2%。本入所の空室率は昨年比 0.9%減少、入院者を除いた実質稼働率は＋1.8%となっています。入院者数の平均は 49 床と昨年に比べると入院の割合が増えています。多くは 2 週間程度の入院となっていますが、1 か月近い入院から状態回復が難しくそのまま退所となるケースもあります。昨年と同様に旭区特養の申込者数、待機者数は減少傾向にあります。年末から看取りでの退所者が続出しましたが、待機者がいないため空床が続いています。

ショートステイについては、昨年度より＋11%近く稼働率が上昇しています。その背景に、本入所を申し込み入所までの間ロングショートを利用希望される方が増えています。本入所の空室をロングショートで活用することで空室の減少に繋がっています。

VI. サービス部門

1. 基本サービス

(1) 介護サービス計画（ケアプラン）

介護支援専門員 2 名が入居者別の担当を持ち、サービス計画の作成及び更新を行いました。ケアカンファレンスを通じて、入居者本人、家族の要望や各部門の専門性を活かせる内容を計画に取り入れました。5 類後の 12 月から同席再開となり、対面での定期的な意向確認と情報交換は、とても有意義な時間となっています。今後も家族間と密な連携を図っていきます。

(2) 日常生活支援

①食事について

栄養ケア計画に基づき、入居者の個々の身体状況に適した食事環境や食事形態及び介助方法にて支援を実施。食事委員会や調理委託業者と連携を図り、食事が入居者にとって楽しみのようになっていただけるよう、日常献立の種類、行事食、季節の食材等を取り入れました。ご家族様と共同で嗜好品を提供し、お寿司の出前や地方の郷土料理などのイベント食を取入れるなど、生活意欲の源になれるようにつとめています。

②入浴について

一般浴、リフト浴、寝台浴で入居者の身体状況の変化に合わせた対応を行っています。体調不良等で入浴ができなかった方には、状況に応じて清拭で対応。入浴・排泄委員会と連携をとり、統一した入浴ケアの向上につとめました。

③排泄について

ユニット会議や委員会を通じて、個人の排泄形態を随時見直し、自立支援と清潔保持につとめています。褥瘡委員会と問題共有し、褥瘡リスクの高い方については、種別の変更や交換回数の見直しを図るなど、予防意識を高めています。

④個別機能訓練について

機能訓練指導員による「個別機能訓練計画」を他職種と連携し立案しています。生活の質と日々の機能維持、向上を図り、計画的に実施しています。

⑤健康管理について

看護職員を中心に入居者の健康管理を行う。病気等の早期治療、回復を図る為、内科の回診を週1回、訪問歯科週1回、精神科月2回、を設け医療面での充実を図っています。家族と回診医師との意見交換の場もご要望に応じて設けています。受診が必要になった場合は、協力病院の他、他の急性期病院へ受診対応を行っています。また、協力医療機関による定期採血や年1回の入居者健康診断を実施し、健康管理の把握につとめています。

(3) 事故防止について

事故の対策は、「事故防止対策委員会」を中心に検討会議を行い、また、再発防止に取り組みました。落葉や誤薬等、職員因子による行政対象の事故に対し、マニュアルの見直しや注意喚起の掲示をする等、危険意識を高め事故の再発及び予防に努めています。また、委員会活動や研修を通じて、事故発生後からの再検証と記録の徹底を図り、対策の妥当性を振り返る事により、同等事故の再発防止にも努めています。

(4) 感染予防について

インフルエンザの発症者は4名（職員4名、入居者0名）。新型コロナウイルスは、33名（職員7名、入居者33名）が発症。随時、臨時感染予防委員会を開催し早期対応につとめました。協力医療機関や行政との連携・情報共有し、早期治療と蔓延防止にあたりました。内部研修を年に2回行い対策強化の継続を図っています。5類となり、面会外出が徐々に緩和されておりますが、施設内の基本的な感染予防対策は引き続き継続しております。

(5) 褥瘡予防について

「褥瘡予防委員会」を中心にマニュアルに沿った予防の指導を職員に実践しています。褥瘡発生者や高リスク者の評価を毎月行ない、早期の予防に努める様にしています。拘縮が進行することにより褥瘡に繋がるケースも散見されています。良肢位保持の重要性について研修や指導員による助言により、随時より良い姿勢の取り方を学んでいます。また、エアマットや耐圧分散マットレスなどの介護用品も適宜、不備のないように整備しています。

(6) 看取り介護について

年数回、多職種が集まり委員会を開催、お看取り期の食事提供や褥瘡予防の徹底、ご家族と共に寄り添い、少しでも悔いが残らない旅立ちが迎えられる様に知識を高め

「心に共に寄り添う」看取りケアの実現に向け努めてまいります 入居者様の9割以上が施設での看取りを希望されています。

ご家族様向け「大切な人の旅立ちに寄り添う」看取りの冊子を作製、配布しました。

(7) 年間行事・レクリエーション、イベント、クラブ活動

①行事について

「行事委員会」の企画、運営により、年間の行事活動を実施。

行事活動は年間行事計画に基づき開催できました。

- 4 月 ・おやつレク、出前レク、花見ドライブ
- 5 月 ・母の日 ・おやつレク、料理レク、出前レク
- 6 月 ・父の日、おやつレク、遠足（動物園）
- 7 月 ・神輿パレード鑑賞・七夕 ・出前寿司レク
- 8 月 ・おやつレク、料理レク
- 9 月 ・敬老会、
- 10 月 ・秋祭り、
- 11 月 ・おやつレク、ドライブ
- 12 月 ・クリスマス会、
- 1 月 ・初詣・正月飾り、おやつレク、出前レク
- 2 月 ・節分豆まき、出前レク
- 3 月 ・ひな祭り、おやつレク

②レクリエーション、イベント、クラブ活動等

ユニット単位での日々の余暇活動を行っています。誕生日会、調理レク、出前、カラオケ、テーブルゲーム等、入居者同士が交流でき、楽しみの機会を作っています。

秋にはご家族、近隣の方々も参加した秋祭りを開催致しました。100名近い参加がありました。感染症対策で受入が困難だった、ボランティアや近隣の幼稚園児の受入も実現でき入居者様にはとても喜んで頂きました。

(8) 家族懇談会

5年ぶりに開催いたしました（令和7年2月15日）。午前午後の二部構成で、合計41名、31組のご家族様にご参加いただきました。施設運営の説明や、当苑のサービス内容について意見交換し、とても有意義な時間を持てました。事前にアンケートを配布し、ご出席が難しかった方々のご意見も参考に、今後の施設運営に役立てていきます。今後も、貴重な意見交換の場として、毎年開催を継続していきます。

(9) 広報活動

「広報委員会」が企画運営を行い、施設での暮らしやトピックスを伝えられるよう広報誌「陽光だより」を毎月発行しています。また、インスタグラムによるSNSを活用し、行事

や施設内の様子を随時発信しています。また、ホームページを刷新し最新の情報を発信できるように整備いたしました。その他、日々の活動が皆様に伝わる方法を併せて検討していきます。

VII. 各部門業務報告

総 務

請求業務に重点を置き務めておりますが、不備により迷惑をかけてしまう事も只ありました。同じ失敗を繰り返さない様にシステムを勉強しマニュアル化するなど、そこから得られた学びもありました。請求業務につきましては、これからも正確且つスピーディに遂行できるよう進化し続けて参ります。その他、スタッフの皆様が気持ち良く就業出来る様に備品管理等の環境整備に努めていきます。

介 護

「心の通う支援」を目標に、日々の生活状況の把握を行い、現場からの情報をもとに、他職種とカンファレンスを行い、きめ細やかなサービスの提供を実施することができました。また急の状態変化の方が多数続き、より細やかなケアが求められる中、その変化についていけず、「もっと何か出来た事はあったのではないか」と考え、悩み次に生かせるように多職種との連携を図ってきました。職員の質の向上のため、オンラインを活用し、人として、介護士としての自覚、意識と知識の向上に努めました。

また、外国人（特定技能実習生）の初任者研修、実務者研修を習得し、介護技術、知識、日本語の習得に努めました。

看 護

今年度も業務改善を行い看護の機能性、安全性、経済面、効率性の改善を図りました。感染症予防対策の動向や最新情報の把握に努め感染予防および拡大防止に努めました。他職種、訪問診療医と連携を図り、ご入所者様やご家族様の意向に寄り添い、地域医療を活用した健康状態の悪化の予防、健康障害の早期発見に繋ぐことができました。

看取り期を迎えたご入居者様やご家族様が「陽光苑で良かった」と思える最期を迎えることができるよう、心の通った支援を大切にしています。来年度も専門職として自己研鑽に励み、ご入居様とご家族様中心の温かみのある看護の提供を継続していきます。

機能訓練

ご入居者様のアセスメントに基づいた機能訓練計画を、他職種と連携し立てることができました。日常生活動作の中で行う機能訓練、ケアの内容は共有できていましたが、職員の知識や技術の習熟度に個人差があり、ケアの均一化には今年度も不十分な面がありました。来年度も

引き続き研修や現場指導を通じて介助技術の向上を目指します。また、日常生活動作の変化に柔軟に応じた機能訓練計画の作成と実践に努めます。

栄 養

感染症発生時の栄養補給の確保に適宜対応できました。また、カンファレンスで情報を共有することで個々に適した食事内容の提案を行いましたが、ユニット内で共有ができず、実施にあたり足踏みする場面がありました。来年度も発信方法の工夫と、他職種間の情報共有の方法について部署間で連携を高めていきます。

食事委員会や厨房との給食会議を定期的に行い、イベント食やリクエスト食等、継続し提供しました。来年度も生活の楽しみを提供できるよう、取り組んでまいります。

介護支援専門員

定例のカンファレンスや勉強会を通じて、施設サービス計画書の意義や情報の取得から実践、評価につなげる視点の持ち方について共に学び、変化の気づきや早期の対応、自己実現の支援につとめました。半年ごとの定例の話し合いをご家族様の参加を再開し、直接声を挙げていただく事により、より密に意見交換をできています。しかし、重大事故発生時や退院時、日々の状態変化や新たなニーズの発生、看取りの際に臨時で意見交換の機会を設けていますが、昨年度に続き、支援内容の定着と変更時の切り替えに時間を要す等、情報共有には課題が残りました。状態に応じ早期の話し合いと実践、振り返りを行うとともに、施設内勉強会で計画から実践の展開や個別ケアの意義の発信に努めます。ご入居者様ご家族様のニーズを的確に捉え、支援に繋げていきます。

また、感染症や看取りの対応強化に努めました。入居から最期まで、ご入居者様ご家族様が安心して過ごしていけるよう到来期取り組みます。

生活相談員

依然として申込者数が伸び悩んでいます。申込の段階で入所案内を行っていますが、複数申込みをされている方が多く他施設からも声がかかり、入所に繋がっていないのが現状です。申込者の傾向ですが比較的待機期間短く入所できると、高齢者施設・住まいの相談センターより案内されている影響か、旭区以外の在住者の申込みが増えています。引き続き相談センターと連携しながら、入所申込みに繋げていけるよう努めていきます。

今年度は、5年ぶりに家族懇談会を開催しました。多くのご家族の参加があり、施設運営について様々なご意見をいただきました。ご意見としては余暇活動の充実を望まれるものがありました。ご家族のご意見を踏まえ、来年度はご家族も参加できるよう、一層余暇活動に力をいれご入居者様が楽しく施設での生活を過ごせるよう取り組んでいきます。

ショートステイ

広報や空室情報を毎月更新し、施設の取り組みや利用についての情報を発信することができました。ホームページのリニューアルとともに、関係者以外の方にも新鮮な情報を発信しているように取り組んでおります。また、提携医療機関である神奈川病院を主に、退院後の在宅生活の継続に不安がある方の受け皿となれるよう、居宅支援事業者以外にも、医療機関の医師、相談員との連携強化につとめ、ご家庭や施設本入所の利用調整を行いました。また、利用者やご家族様の状況に応じては、入退所時間を微調整する等、利便性の向上に努めました。結果、利用しやすくなったと評価をいただいております。年間の利用日数も昨年度よりも増加しています。来年度も利用しやすい体制づくりを目指していきます。